

保護者にとっての学童クラブの在り方

— 保護者の意識調査結果から —

林 香 織*

要 約

本研究の目的は、学童クラブに焦点を当て、保護者がクラブに求めていることを明らかにするとともに、保護者の考え方のみならず、保護者の社会関係資本や地域内でのコミュニティを把握することにある。流山市内で学童クラブを運営する2団体に協力を頂き、児童を通わせている保護者に対する意識調査を行った。その結果、保護者は、学童を「放課後の安心・安全な場所」として認識しているものの、「生活指導による自立支援の場」と考えておらず、むしろ「挨拶や礼儀などの社会的マナー」を身につけて欲しいと望んでいる。また、保護者の社会関係資本は、子どもを通じた友人のコミュニティが中心であり、それらの友人とはLineや携帯・スマホのメールを通じて維持拡大が行われている。今後、こうしたツールを用いて、学童運営に興味を持ってもらえるような仕組み作りが必要となる。

キーワード：学童クラブ、メディアコミュニティ

はじめに

本学を擁する千葉県流山市は、首都圏でも人口減少や過疎化が社会課題となりつつある中、着実に人口を増加させてきている^①。このような人口増加は、「母になるなら、流山市。」というキャッチーなフレーズを用いたシティセールスを行った結果で、特に30～40歳代の子育て世代の呼び込みに成功した。人口が急増すれば、それに伴う諸問題が表面化するが、流山市では子育て世代を公的に支援する必要性に迫られている。

現在、流山市内には社会福祉法人やNPOによって、27の公設学童クラブが運営されている。本研究では、このうち、特定非営利活動法人 Rise Up 女性サポート実行委員会（以下、Rise Up）、

代表：山中有紀さま、NPO 法人でんでんむし（以下、でんでんむし）、代表：小沼みはるさまのご協力の元、学童クラブに焦点を宛て、学童クラブに児童を通わせる保護者が、学童クラブに求めていることは何かを明らかにするものである。

なお、本研究における「学童クラブにおける保護者の意識調査」は、2016年度江戸川大学学内共同研究費「まちの魅力づくりに向けた社会関係資本の構築に関する研究（研究代表者：廣田有里、研究分担者：土屋薫、林香織）」の一環で行われた。調査にご協力頂いた、運営者、並びに調査にご回答頂いた保護者の皆様に、謝意を表したい。

1. 研究背景

流山市公式 web サイトでは、学童クラブを、「保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校就学児童に、授業終了後等に適切な遊びおよび生活の場を与え、健全な育成を図ることを目的とす

2017年11月30日受付

* 江戸川大学 マス・コミュニケーション学科准教授 社会学、メディアコミュニケーション論

る施設」とされている。これは、児童福祉法第6条3の2項における「小学校に就学している児童であつて、その保護者が労働等により昼間家庭にいないものに、授業の終了後に児童厚生施設等の施設を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図る事業」、すなわち放課後児童健全育成事業の規程に沿った説明となっている。

学童クラブは、1951年に社会福祉法上の第二種社会福祉事業として規定され、2012年8月の「子ども・子育て支援法」の策定と「児童福祉法」の改定による施策変更に伴い、地域の子ども、子育て支援事業の重点課題として認識されるようになった。自治体によって「学童クラブ」「学童保育」「放課後児童クラブ」といったように呼び名が異なるものの、「小学校に就学している児童(児童福祉法第6条の3第2項)」を対象としている。なお、本論では流山市の記述に併せて「学童クラブ」を用いることとする。

全国学童保育連絡協議会の調査⁽²⁾によると、2016年5月1日現在、日本国内の学童クラブは27,638か所を数え、入所児童者数は1,076,571人となっている。事業を実施し、質の確保を図る意味合いで、2014年に厚生労働省によって「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」が定められ、「放課後児童クラブ運営指針」(平成27年3月31日雇児発0331第34号厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知)が策定された⁽³⁾。

「放課後児童クラブ運営指針」によると、その育成支援は、「子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境を整え、安全面に配慮しながら子どもが自ら危険を回避できるようにしていくとともに、子どもの発達段階に応じた主体的な遊びや生活が可能となるように、自主性、社会性及び創造性の向上、基本的な生活習慣の確立等により、子どもの健全な育成を図ることを目的とする。」とある(同掲)。

こうした指針に基づき、流山市には現在16の全学校区に学童クラブが設置されており、地方自治法に基づく指定管理者制度によって、27の学童クラブが運営されている。今回調査にご協力頂いた Rise up は、2010年5月から活動を始めた

団体で、「子育て中の女性が特技や資格などを生かした事業を行い、その事業に参加することによって生まれる女性同士の絆こそ、地域で孤立しない健全な子育てをするために必要なこと(原文ママ)」と考え活動を行っている。Rise Up は、そよかせ(八木南小学校)、たけのこ(向小金小学校)⁽⁴⁾、東学童クラブ(東小学校)、おたかの森小学校区学童クラブ・どんぐり(おたかの森小学校)⁽⁵⁾、の学童クラブの運営を行っている。また、でんでんむしは、2011年8月から「子どもたちの健やかな成長を願い、皆さんの子育てを応援する」ことを目的とした活動を行っている。現在は、八木北小学校区学童クラブ、通称やまびこルーム(八木北小学校)、第1~4 おたかの森ルーム(小山小学校)、ひよどり学童クラブ(長崎小学校)の運営を行っている。

2つのクラブが運営する学童クラブの保護者数は、総計で436名。今回は、この436名を対象としたアンケート調査を行うこととした。

2. 先行研究の整理

学童クラブにおける質問紙を用いた研究は、クラブに関わる児童・指導員・運営者・保護者の4つの方向から見えていくものが多い。特に2015年度の放課後児童支援員の資格新設前後に、指導員に対する聞き取り調査が増加している。

小林らは、放課後児童クラブの指導員に焦点を当てた質問紙調査を行った結果、学童クラブ、家庭、学校それぞれの場における子どもの様子の違いについての対応を、多くの学童クラブが課題としていることを指摘した上で、特に学童クラブでの子どもの様子に困惑する保護者の姿を明らかにした(小林ら、2016)。指導員の目に映る子どもの姿と、家庭や学校での様子が異なり、保護者は理解しがたいのだという。学童クラブは、放課後の児童にとって生活の場である。その生活の場をどのように作り出すか、それがすべて指導員にかかっているわけではない。本来は、保護者や運営者とのコミュニケーションを通して作り上げられていくべきである。

大谷は、指導員が考える学童保育の機能について、自由に遊ぶことやスキンシップを含めた様々な活動を行うことを重要視する活動因子と、計画性と規範性を持った関わりを示す規範因子の2つの因子を導き出した上で、指導員の考え方が生活の場としての学童保育の質に影響を与えていることを指摘している（大谷，2014）。つまり、指導員にはかなり大きな負担がかかっているということでもある。実際、流山市内の学童クラブそよかぜで、大学発のプログラムを実践したところ、指導員の負担が増え、保護者は無関心なままだった（廣田ら，2016）。

だが、保護者の意識調査を行う研究成果からは、満足度という尺度が用いられるため、関心・無関心がうまく導き出されていない傾向が強い。例えば、西地らは学童保育を利用する児童のソーシャルサポートを考えるための保護者に対するアンケートを行った結果、利用前に半数以上の保護者が、心配事や可哀想という気持ちを持つ一方、利用後に子どもに変化が現れた場合、変化のない保護者よりも、満足度が高いことを明らかにしている（西地ら，2012）。何か良い兆候が見られた場合には、関心が高まることもあるが、そうでない場合には、保護者は無関心になっていく可能性があるということだ。

指導員の負担を軽減し、また保護者に学童が生活の場であることを意識してもらうためには、積極的な情報発信が必要となるだろう。秋崎は、学童保育における保護者への情報伝達について、「おたより」を元に整理を行い、①保護者の声を反映させること、②保護者が学童保育での、遊び・生活の様子を知り、相互理解を得るだけでなく、それが家庭での生活に繋がるメッセージになること、③保護者とともに、学童期の子育てや学童保育について考える視点を持つこと、④指導員の心に残った具体的なエピソードを綴ること、を指摘している。やはり保護者には、学童での様子を知ってもらう必要があるが、そもそも保護者は学童クラブというものをどう考えているのかに焦点を当てる研究はまだ少ない。

3. 調査概要

先行研究を踏まえ、質問紙を作成し、Rise up とでんでんむしが運営する、流山市内学童クラブへのアンケート調査を行った。

3.1 調査対象者、調査方法

- a. 調査対象母集団：流山市内学童クラブに児童を通わせている保護者 436 名。
- b. 標本数：有効回答数 152
- c. 調査時期：配布 2016.11.12(土)～11.26(土) 保護者会時や保護者用ポストに投函
回収 2016.11.12(土)～11.30(水) 郵送回収
- d. 調査方法：自己記入式アンケート調査

3.2 質問事項

属性（性別、居住地区、居住年数、同居家族構成、主たる生計主の就業形態、平日帰宅時間）、学童保育の目的、学童で身に付けさせたい力、学童の利用についての考え方、学童を話題にする時、メディア利用実態、学童からの情報発信を望むメディア

3.3 回収率

本調査における調査母数は152。平均して34.9%の回収率があり、回答率は妥当なものと考えられる。

4. 調査結果

4.1 属性の整理

回答者の90.1%が女性に偏っており、年齢も30歳代が49.3%、40歳代が48.7%と30～40歳代に集中しているが、子育て世代を対象としたアンケート調査結果としては、妥当な比率である。なお、本調査の単純集計結果を本論の末尾で公開することとした。

4.2 調査結果

質問1は、学童クラブの目的をどのように理解しているかをみるものである。厚生労働省の「放課後児童クラブ運営方針」からの抜粋7項目について尋ねた結果が図1である。「放課後の安全・安心な居場所」「異年齢との関わりを持てる場所」「集団生活を体験する場所」「学習(宿題など)する環境がある場所」「さまざまな遊びを体験する場所」として学童保育を捉える保護者が半数近くいる一方で、「友達づくりに適した場所」「生活指導による自立支援の場所」として考えている保護者は少ないことがわかる。

厚労省は、これら7項目全てが学童保育の運営

指針であるとしていることから、評価が低い項目については、運営者側から働きかけ、今後保護者の理解を促していかなければならないと考えられる。放課後にそこへ行けばいいというものではなく、やはり学習や遊びを集団で経験する中で、力を養う場所として「学童」を考えねばならない。

質問2は、質問1に関連し、学童保育に子どもを通わせることで、身に付けて欲しい能力があるかを尋ねたもので、その結果は図2のようになった。

やはり、「同年代の子ども達とのコミュニケーション能力」「集団生活における適応力、順応性」「遊びを通じた社会性」といった力を身に付けて欲しいという回答が多い一方、「学習能力の向上」は著しく低い。しかし、ここで言う「身に付けて

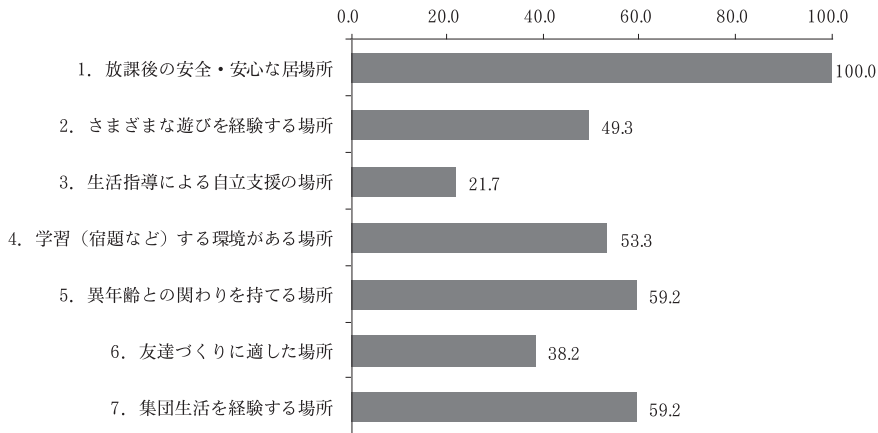


図1 学童保育の考え方(%)

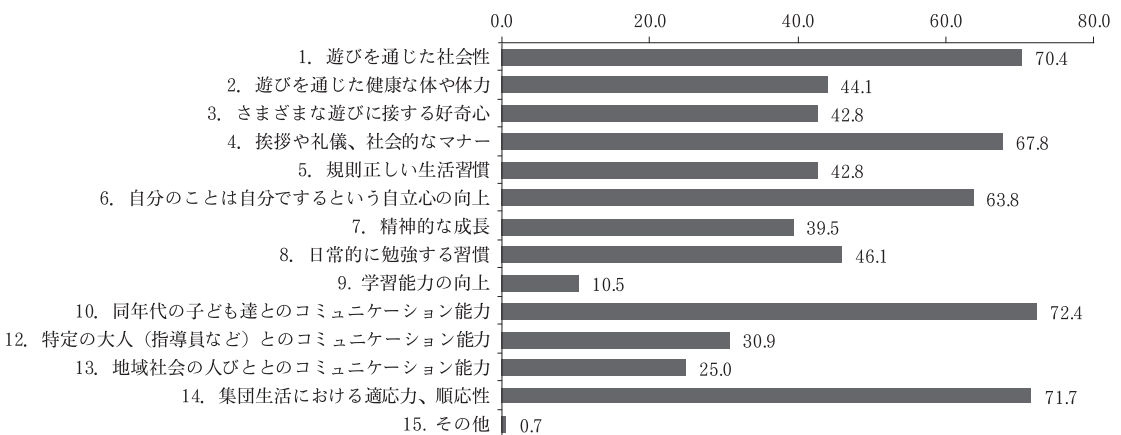


図2 学童保育で子どもに身に付けて欲しい力(%)

欲しい力」は質問1の学童の役割を、力に置き換えただけの項目であるため本来なら全てに○がついてもおかしくない。例えば「自立する力」を身に付けて欲しい保護者は、そうでない保護者よりも強く学童を「自立支援の場」と考えている($p < .01$)など、身に付けさせたい能力によって、学童のとらえ方の違いが明確に出ていることが特徴的である。

次に、日常生活で、子ども、家族、子どもを通じた友人のそれぞれと、「学童」「学童の友人」「指導員」「運営者」のことが話題にのぼる頻度を4段階できいた結果を図3に示した。話題になることが多いのは、保護者と子どもの会話において、学童であったこと、学童の友人、指導員のことについてである。どの関係性においても、「子ども

の友人関係」が話題にのぼることが多く、保護者の最大の関心事は、学童における子どもの人間関係にあることがわかる。ところが、どの関係性においても、「運営者」について、話題にのぼることは少ない。学童の運営にそれなりの要望があるはずだが、話題にするという意味での、学童の運営にはあまり興味を持っていない保護者像が明らかになった。

保護者の考え方をより明確にするため、どのような社会関係資本を持っているのかを、メディア利用の観点から明らかにすることも試みた。各メディアによって繋がっている人数を把握しようと試みた結果が表1となる。今回の調査における回答者の属性的みて、30~40歳代の女性の比率が多いことから、SNSやLINEの利用割合が高い

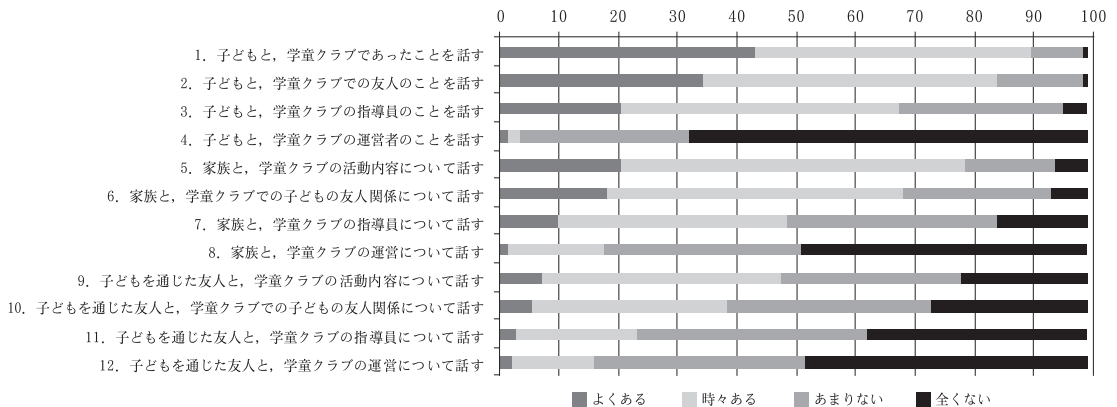


図3 日常生活で学童のことを話題にする相手と頻度 (%)

表1 メディアを利用したコミュニケーションの相手人数 (%)

	1. 携帯やスマホのメール相手	2. PCメールの相手	3. SNS (Facebook, Twitter など) の相手	4. Lineの相手
無回答	7.2	17.1	11.8	5.9
いない	5.3	61.8	46.1	13.8
1~5人未満	21.8	37.5	6.3	8.2
5~10人未満	20.3	15.6	9.4	6.6
10~15人未満	27.8	28.8	23.4	23.8
15~20人未満	3.8	3.1	3.1	4.1
20人以上	26.3	25.0	57.8	57.4

表2 友人の数 (%)

	1. 子どもを通じた友人	2. 職場の友人	3. SNSを通じて知り合った友人	4. 地域や近所の友人
無回答	4.6	7.2	7.9	7.2
いない	6.6	3.3	77.0	17.1
1～5人未満	17.8	30.9	43.5	30.4
5～10人未満	20.0	19.1	8.7	26.1
10～15人未満	28.1	27.2	17.4	30.4
15～20人未満	2.2	6.6	0.0	0.9
20人以上	31.9	16.2	30.4	12.2

表3 年間の参加イベント (%)

	1. ボランティア活動	2. 自治会活動	3. 地域のイベント(お祭りなど)	4. 学童クラブの保護者会	5. 学童クラブが主催のイベント
無回答	2.6	1.3	2.0	2.0	1.3
参加していない	77.0	50.0	17.1	26.3	67.1
1回	54.8	29.7	38.2	60.6	89.6
2回	22.6	27.0	27.6	38.5	8.3
3回	12.9	18.9	21.1	0.9	2.1
4回	0.0	4.1	2.4	0.0	0.0
5回以上	9.7	20.3	10.6	0.0	0.0

ことは有る程度予測していたが、SNSの相手がない46.1%、LINEの相手の不在が13.8%となっており、一般的データよりもアクティブにSNSを使いこなしていることがわかる（情報通信白書平成27年版では、SNSの30～40歳代利用者はどちらも4割程度）。PCのメール相手がない人が61.8%おり、携帯やスマホなどのモバイルに偏った利用傾向があることも見てとれる。

相手数は、行為者（無回答と、相手がない人を除いた数値）における相手数を比較すると、より人間関係を広範に保つために利用されているのが、SNSとLINEであり、携帯・スマホやPCメールは、限られた（少ない）相手との人間関係維持に利用されているという、使い分けが見てとれる。

問5と同じく、社会関係資本を視覚化できるように、友人を「子どもを通じた友人」「職場の友

人」「SNSで知り合った友人」「地域や近所の友人」の4つのカテゴリーに分けて、それぞれ何人くらいいるのかを尋ねた結果が、表2になる。SNSの利用頻度はあるものの、SNSを通じて知り合った友人の数は少なく、身近な人間関係の維持に利用されていることがわかる。また、地域や近所の友人はそもそも非常に少ないことがわかる。子育て世代にとっての友人関係において重視されていると考えられるのは、子どもを通じた友人であることが確認できた。

地域社会における社会関係資本の獲得、維持に、地域のイベントは欠かせない。ただ、子育て世代、特に職を持つ学童の保護者にとって、こうしたイベントに参加することは時間的に負担になると考えられる。そこで、今回の調査では、どのような地域イベントにどれくらいの頻度で参加しているのかを尋ねた結果が、表3になる。ボランティア、

自治会イベントの開催は非常に参加率が少ないが、お祭りなどの地域イベントの参加率はそれなりに高い。学童主催のイベント、特に保護者会への参加率は7割弱あるため、保護者会は、運営について理解を得て良い機会と考えられる。しかし、総じてイベントへの参加は低いため、これら世代をいかに地域社会の活動に向かわせるかが、今後の課題といえる。

まとめと今後の展望

本研究による調査結果を総括すると以下のようになる。

- 保護者は、学童を「放課後の安心・安全な居場所」として認識しているが、「生活指導による自立支援の場」とは考えていない。
- 一方では、学童で「挨拶や礼儀などの社会的マナー」を身に付けて欲しいと望んでおり、この能力を子どもが身に付けたと考えられるような仕組み作りが、今後の学童運営に求められていると考えられる。
- 保護者の関心は、子どもの、学童における友人関係に焦点があり、運営についてはほとんど話題にのぼることはない。どのような友人と出会えるかが、学童の良し悪しを決めることになるため、注意が必要である。
- 保護者の社会関係資本は、子どもを通じた友人が中心となっており、それらの友人とは、LINE や携帯・スマホのメールを通じて維持拡大が行われている。
- 保護者の地域イベントへの参加率は高くない。時間的余裕がないことが一番の理由だと考えられるが、今後この世代の地域イベントの参加率向上を検討すべきである。

子育て中の最も多忙な世代の詳細なデータが得られた点で、本調査のデータは貴重である。今後さらに分析を進め、地域の大学として学童クラブの発展に寄与していきたい。

《注》

- (1) 流山市公式 web サイト 人口増加中 <http://www.city.nagareyama.chiba.jp/appeal/1003878/1003882.html> (2017. 11. 22)
- (2) 全国学童保育連絡協議会 2016年5月1日現在の学童保育実施状況調査 報道資料による <http://www2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou/pressrelease20160902.pdf> (2017. 11. 20)
- (3) 「放課後児童クラブ運営指針」厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11906000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Ikuseikankyoka/0000080763.pdf> (2017. 11. 20)
- (4) 流山市 web サイトで、「向小金第1学童クラブ」「向小金第2学童クラブ」と表記されているが、併せて「たけのこ」と呼んでいる。
- (5) おおたかの森小学校学童クラブ・どんぐりは、アクティオ株式会社連合体が指定管理者であり、Rise up は、学童クラブ運営を担当している。

参考文献

- 秋崎剛, 2016, 学童保育における保護者への通信に関する研究 — 「おたより」の分析から —, 幼年児童教育研究第28号, 47-57
- 大谷直史, 2014, 学童保育指導員の類型分析 — 学童保育の考え方に関する質問紙調査 —, 学童保育: 日本学童保育学会紀要4, 33-42
- 小林由佳・中島美邦子, 2016, 放課後児童クラブの連携実態と運営上の課題との関連性 — 3市学童指導員の質問紙調査から —, おおみか教育研究第19巻, 37-48
- 西地令子・宮林郁子・鷲尾昌一, 2012, 学童保育に通う児童のソーシャルサポートと保護者への心理的影響, 島根大学医学部紀要第35巻, 9-21
- 廣田有里・土屋薫・林香織, 緑のカーテンづくりをツールとした世代間交流の実践と課題 — 緑化コミュニティ構築に向けたプログラム開発 —, 江戸川大学紀要第26号, 339-349

■まず、分析に必要な情報のため、あなたのことをお知らせください。

あなたの性別（○は一つ） $n = 152$

1. 男性 8.6	2. 女性 90.1
-----------	------------

あなたの年齢（○は一つ） $n = 152$

1. 20歳代 0.7	2. 30歳代 49.3	3. 40歳代 48.7	4. 50歳代 0.7	5. 60歳代 0.0	6. 70歳以上 0.7
-------------	--------------	--------------	-------------	-------------	--------------

現在お住まいの地域はどこですか。 $n = 152$ $na = 7.2$

1. 東部 43.3	2. 中部 41.1	3. 南部 15.6
------------	------------	------------

現在お住まいの地域にどれくらいの年数お住まいですか。 $n = 152$

(平均 8.87 中央値 7.0) 年くらい住んでいる

同居しているお子さんの数を教えてください（○は一つ）。 $n = 152$ $na = 0.7$

1. 1人 24.3	2. 2人 60.5	3. 3人 10.5	4. 4人以上 3.9
------------	------------	------------	-------------

同居している家族の人数を教えてください（○は一つ）。 $n = 152$ $na = 0.7$

1. 2人 7.2	2. 3人 28.3	3. 4人 46.7	4. 5人 13.2	5. 6人以上 3.9
-----------	------------	------------	------------	-------------

同居している家族構成を教えてください（○は一つ）。 $n = 152$

1. 自分と子ども 6.6	2. 夫婦と子ども 88.2	3. 3世代家族 2.6	4. 祖父母と子ども 2.6	5. その他 0.0
------------------	-------------------	-----------------	-------------------	---------------

主たる生計主の就業形態を教えてください（○は一つ）。 $n = 152$

1. 常勤 92.1	2. パート・臨時 3.9	3. 自営業 2.6	4. その他 0.7	5. 働いていない 0.7
---------------	------------------	---------------	---------------	------------------

あなたの就業形態を教えてください（○は一つ）。

1. 常勤 63.2	2. パート・臨時 32.2	3. 自営業 3.3	4. その他 0.7	5. 働いていない 0.7
---------------	-------------------	---------------	---------------	------------------

平日のあなたの帰宅時間を教えてください（○は一つ）。 $n = 152$

1. 正午～午後 5時 10.5	2. 5時過ぎ～ 6時 32.9	3. 6時過ぎ～ 7時 40.8	4. 7時過ぎ～ 9時 10.5	5. 9時以降 3.3	6. その他 2.0
---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	----------------	---------------

■学童保育について、お尋ねします

質問1 学童保育をどのような目的の施設とお考えでしょうか。 当てはまるものすべてに○をつけてください。

$n = 152$

1. 放課後の安全・安心な居場所 100.0	5. 異年齢との関わりを持てる場所 59.2
2. さまざまな遊びを経験する場所 49.3	6. 友達づくりに適した場所 38.2
3. 生活指導による自立支援の場所 21.7	7. 集団生活を経験する場所 59.2
4. 学習（宿題など）する環境がある場所 53.3	

質問2 学童保育を通じて，お子さまに身に付けてほしい力がありますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。 $n = 152$ $na = 1.3$

1. 遊びを通じた社会性	70.4
2. 遊びを通じた健康な体や体力	44.1
3. さまざまな遊びに接する好奇心	42.8
4. 挨拶や礼儀，社会的なマナー	67.8
5. 規則正しい生活習慣	42.8
6. 自分のことは自分でするという自立心の向上	63.8
7. 精神的な成長	39.5
8. 日常的に勉強する習慣	46.1
9. 学習能力の向上	10.5
10. 同年代の子ども達とのコミュニケーション能力	72.4
12. 特定の大人（指導員など）とのコミュニケーション能力	30.9
13. 地域社会の人びととのコミュニケーション能力	25.0
14. 集団生活における適応力，順応性	71.7
15. その他（ ）	0.7

質問3 学童保育の利用について，お尋ねします。

各質問に答えてください。 $n = 152$ $na = 1.3$

(○印は、各行の数字に1つつつ，つけてください)

	かなり そうである	やや そうである	あまり そうでない	そう でない
1. あなたは，学童保育を利用するかどうか，迷いましたか？	0.7	9.2	11.8	77.0
2. あなたは，学童保育を利用する前，子どものことで心配事がありましたか？	8.6	28.3	30.3	31.6
3. あなたは，学童保育を利用するようになって，子どものことで心配事ができましたか？	1.3	20.4	35.5	41.4
4. あなたは，学童保育を利用する前，子どもに対して可哀想な気持ちを持ちましたか？	2.6	25.0	27.0	44.1
5. あなたは，学童保育を利用するようになって，子どもに対して可哀想な気持ちを持ちましたか？	0.7	17.1	29.6	51.3
6. あなたは，学童保育を利用してみて満足していますか？	61.8	31.6	3.9	1.3
7. あなたのお子さんは，学童保育を楽しみにしていますか？	49.3	34.9	13.2	1.3
8. あなたのお子さんは，学童保育のお友達と仲が良いですか？	52.0	42.8	3.3	0.7
9. あなたのお子さんは，学童保育へ通うようになって，変化がありましたか？	13.8	42.8	34.9	7.2

質問4 日常生活で、以下のようなことについて話す機会がありますか。

各質問に教えてください。n = 152 na = 1.3

(○印は、各行の数字に1つつ、つけてください)

	よくある	時々ある	あまりない	全くない
1. 子どもと、学童クラブであったことを話す	42.8	46.7	8.6	0.7
2. 子どもと、学童クラブでの友人のことを話す	34.2	49.3	14.5	0.7
3. 子どもと、学童クラブの指導員のことを話す	20.4	46.7	27.6	3.9
4. 子どもと、学童クラブの運営者のことを話す	1.3	2.0	28.3	67.1
5. 家族と、学童クラブの活動内容について話す	20.4	57.9	15.1	5.3
6. 家族と、学童クラブでの子どもの友人関係について話す	17.8	50.0	25.0	5.9
7. 家族と、学童クラブの指導員について話す	9.9	38.2	35.5	15.1
8. 家族と、学童クラブの運営について話す	1.3	16.4	32.9	47.4
9. 子どもを通じた友人と、学童クラブの活動内容について話す	7.2	40.1	30.3	21.1
10. 子どもを通じた友人と、学童クラブでの子どもの友人関係について話す	5.3	32.9	34.2	26.3
11. 子どもを通じた友人と、学童クラブの指導員について話す	2.6	20.4	38.8	36.8
12. 子どもを通じた友人と、学童クラブの運営について話す	2.0	13.8	35.5	47.4

■メディア利用状況や交流関係について、お尋ねします

質問5 あなたにはメールやSNS, Lineなどでやり取りしている人が何人くらいいますか。いない場合は「0(ゼロ)」と記入してください。n = 152

	1. 携帯やスマホのメール相手	2. PCメールの相手	3. SNS (Facebook, Twitter など) の相手	4. Line の相手
無回答	7.2	17.1	11.8	5.9
いない	5.3	61.8	46.1	13.8
1～5人未満	21.8	37.5	6.3	8.2
5～10人未満	20.3	15.6	9.4	6.6
10～15人未満	27.8	28.8	23.4	23.8
15～20人未満	3.8	3.1	3.1	4.1
20人以上	26.3	25.0	57.8	57.4

質問6 あなたには以下のような友達が何人くらいいますか。いない場合は「0(ゼロ)」と記入してください。n = 152

	1. 子どもを通じた友人	2. 職場の友人	3. SNSを通じて知り合った友人	4. 地域や近所の友人
無回答	4.6	7.2	7.9	7.2
いない	6.6	3.3	77.0	17.1
1～5人未満	17.8	30.9	43.5	30.4
5～10人未満	20.0	19.1	8.7	26.1
10～15人未満	28.1	27.2	17.4	30.4
15～20人未満	2.2	6.6	0.0	0.9
20人以上	31.9	16.2	30.4	12.2

質問7 この1年間にあなたは以下のような活動に何回くらい参加しましたか。参加していない場合は「0(ゼロ)」と記入してください。n = 152

	1. ボランティア活動	2. 自治会活動	3. 地域のイベント (お祭りなど)	4. 学童クラブの保護者会	5. 学童クラブが主催のイベント
無回答	2.6	1.3	2.0	2.0	1.3
参加していない	77.0	50.0	17.1	26.3	67.1
1回	54.8	29.7	38.2	60.6	89.6
2回	22.6	27.0	27.6	38.5	8.3
3回	12.9	18.9	21.1	0.9	2.1
4回	0.0	4.1	2.4	0.0	0.0
5回以上	9.7	20.3	10.6	0.0	0.0

質問8 あなたはそれぞれのメディアからインターネットに1日どれくらいアクセスしていますか。

8-1. 1日の携帯電話によるインターネット接続時間は何時間ですか (○は一つ) n = 152 na = 2.6					
1. 1時間未満	27.6	2. 1～3時間未満	19.7	3. 3～5時間未満	2.6
4. 5～7時間未満	1.3	5. 7時間以上	0.0	6. ほとんど利用しない	46.1

8-2. 1日のスマートフォンによるインターネット接続時間は何時間ですか(○は一つ) $n = 152$ $na = 0.0$					
1. 1時間未満	44.1	2. 1~3時間未満	40.8	3. 3~5時間未満	3.9
4. 5~7時間未満	2.0	5. 7時間以上	0.0	6. ほとんど利用しない	9.2

8-3. 1日のパソコンによるインターネット接続時間は何時間ですか(○は一つ) $n = 152$ $na = 0.0$					
1. 1時間未満	40.8	2. 1~3時間未満	15.1	3. 3~5時間未満	2.6
4. 5~7時間未満	3.3	5. 7時間以上	2.0	6. ほとんど利用しない	36.2

質問9 あなたが利用しているSNSは何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

$n = 152$ $na = 1.3$

1. Twitter	9.9	2. Facebook	39.5	3. Line	81.6	4. SNSは利用していない	15.8
------------	-----	-------------	------	---------	------	----------------	------

質問10 学童のホームページの閲覧頻度を教えてください(○は一つ) $n = 152$ $na = 0.0$

1. 毎日少なくとも1回	0.7	2. 週に少なくとも1回 (毎日ではない)	2.6	3. 月に少なくとも1回 (毎週ではない)	13.8	4. それ以下	82.9
--------------	-----	--------------------------	-----	--------------------------	------	---------	------

質問11 学童のホームページを閲覧するときの最もよく使用する手段は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。 $n = 152$ $na = 4.6$

1. パソコン	24.3	2. タブレット	5.3	3. スマートフォン	65.8	4. 携帯電話	2.0	5. その他	3.3
---------	------	----------	-----	------------	------	---------	-----	--------	-----

質問12 学童保育から提供して欲しい情報について、お尋ねします。
各情報について、どれくらい知りたいかを教えてください。
(○印は、各行の数字に1つずつ、つけてください)

$n = 152$ $na = 2.6$

	かなり 知りたい	やや 知りたい	あまり 知りたく ない	全く 知りたく ない
1. 学童の運営方針	20.4	63.2	11.8	2.0
2. 年間行事予定	61.8	34.9	0.0	0.7
3. 支援員の紹介、役割分担	35.5	57.9	2.6	1.3
4. 学童で発生した問題に関する学童の対処とその結果	50.0	43.4	3.3	0.7
5. 学童内での事故防止など安全に関する情報や取組状況	40.1	53.3	3.3	0.7
6. 災害時等緊急時の学童の対処、保護者の対処	60.5	34.9	1.3	0.7
7. 災害時などの緊急時の保護者への連絡	68.4	28.3	0.7	2.6
8. 子どもの生活習慣改善や病気の予防など保健に関する情報	30.3	53.9	11.2	2.0
9. 行事の活動での子どもたちの様子	65.1	30.3	1.3	0.7
10. 児童の学童での日々の生活の様子	65.8	28.9	2.0	0.7
11. 学童から保護者への日常の連絡事項	53.3	40.1	3.9	2.6

質問 13 学童保育から提供して欲しい情報について、お尋ねします。各情報について、どの手段で提供して欲しいかお答えください。

(○印は、各行のあてはまるものすべてに、つけてください)

n = 152 na = 2.6

	文書	ホームページ(パスワードあり)	ホームページ(パスワードなし)	Twitter	ブログ	Facebook	LINE	メール	グループウェア	この中がない
1. 学童の運営方針	43.4	13.8	53.3	0.0	2.6	2.0	3.3	11.2	0.7	1.3
2. 年間行事予定	55.9	27.0	33.6	0.0	2.6	2.0	2.0	4.6	14.5	0.7
3. 支援員の紹介、役割分担	44.1	34.2	28.9	0.0	3.3	2.0	2.6	9.2	0.7	2.0
4. 学童で発生した問題に関する学童の対処とその結果	44.7	30.9	13.8	0.0	3.3	2.0	6.6	22.4	4.9	2.6
5. 学童内での事故防止など安全に関する情報や取組状況	39.5	27.0	35.5	0.0	3.3	2.6	4.6	13.2	0.7	0.0
6. 災害時等緊急時の学童の対処、保護者の対処	46.1	20.4	30.3	0.7	2.6	2.0	11.8	27.0	2.6	1.3
7. 災害時などの緊急時の保護者への連絡	35.5	21.1	19.1	2.6	3.9	3.3	20.4	46.7	3.3	2.0
8. 子どもの生活習慣改善や病気の予防など保健に関する情報	41.4	13.8	38.8	0.0	3.9	3.3	6.6	16.4	0.7	0.7
9. 行事の活動での子どもたちの様子	33.6	50.0	12.5	0.7	11.8	5.3	6.6	12.5	0.7	3.3
10. 児童の学童での日々の生活の様子	32.9	48.7	11.8	0.7	11.8	5.3	6.6	11.2	2.0	5.3
11. 学童から保護者への日常の連絡事項	48.0	19.7	8.6	0.0	1.3	3.3	23.0	48.0	2.0	3.9

質問は以上です。ありがとうございました。